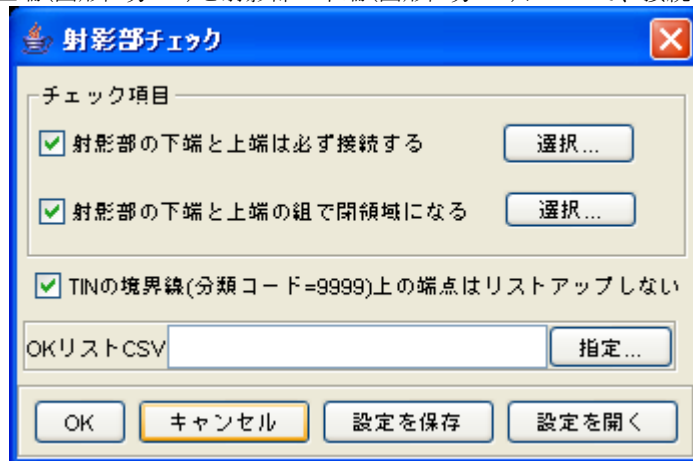


1. 射影部チェック

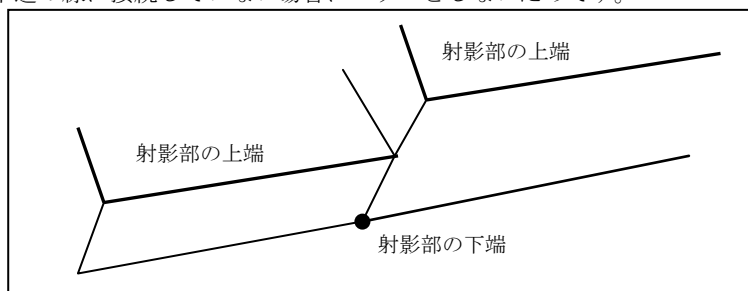
新メニュー[チェック]-[射影部チェック]を追加しました。以下、説明書からの抜粋です。

射影部の上端(図形区分=11)と射影部の下端(図形区分=12)について、接続していない箇所を検出します。



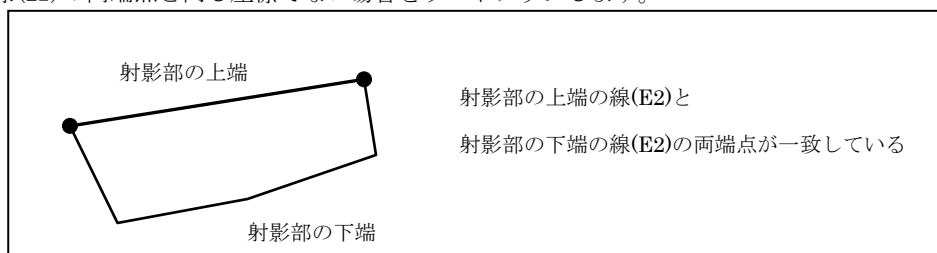
【射影部の下端と上端は必ず接続する】

射影部の上端の端点と下端の端点は必ず接続していることを確認します。接続していない端点をリストアップします。射影部の上端の線からネットワークを作り、ネットワークの端点について調べます。端点が射影部の下端の線上にあればOKとします。端点が射影部の下端の線上になくても、図郭線上であればOKとします。さらに、オプション[TINの境界線(分類コード=9999)上の端点はリストアップしない]がONの場合、端点が分類コード=9999の線上にあれば、地図取得範囲の境界で切れているケースとしてOKとします。ネットワークの端点について、上記のOK以外の点を[チェックリスト]にリストアップします。射影部の下端についても同様にチェックします。ネットワークの端点を調べる理由は、宅地などで射影部の線が分岐になっているケースでは、線(E2)単体の端点がかからなずしも上下逆の線に接続していない場合にエラーとしないためです。



【射影部の下端と上端の組で閉領域になる】

射影部の上端の線(E2)と下端の線(E2)の2本の組で、閉じた図形になるべき地物について検査します。線(E2)の両端点が上下逆の線(E2)の両端点と同じ座標でない場合をリストアップします。

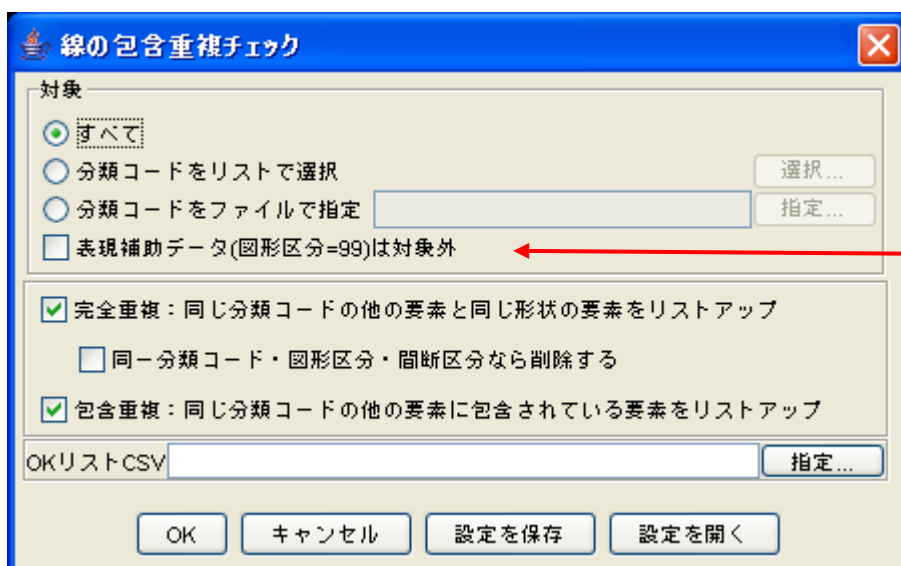


【TINの境界線(分類コード=9999)上の端点はリストアップしない】

上記のチェックで、端点が分類コード=9999の線上にある場合、リストアップしません。地図全体の領域の境界で射影部の線が切れているケースをエラーとしないためです。メニュー[TIN]-[TIN作成]でTINを作成し、メニュー[TIN]-[TINの境界]で、TIN全体の外周を分類コード=9999の線としてDMデータに追加できます。

2. 線の包含重複チェック

[チェック]-[線の包含重複チェック]にオプション「表現補助データ(図形区分=99)は対象外」を追加しました。



3. OKリスト

[チェック]メニューについて、まだ「OKリスト CSV」の指定がなかったメニュー、[レコードタイプチェック][その他のチェック]などに「OKリスト CSV」を追加しました。但し、メニュー[グループヘッダレコード]は該当する要素の数をカウントするので「OKリスト CSV」はありません。